

- 口・ハについて、話し合いの中で理解していく。
- A : 猿と人間の食べ物がそれぞれ理解できる。違いを意識する。
- H : 猿と人間の食べ物がそれぞれ理解出来、友達の意見を聞きながら、違いについて意見を言う。
- 口・ハについて、話し合いの中で理解していく。
- I : イについて、自分から気づいて、意見を発表できる。
- 口・ハについて、酒井君の意見や先生のアドバイスを聞き、自分の意見を発表する。
- K : イについて、自分の意見を発表できる。
- 口・ハについて、話し合いの内容をよく聞き、理解していく。

(3) 本時の展開

時間	学習内容	指導上の留意点	個々の生徒の活動
5分	●はじめの挨拶 本時の説明 T 猿(チンパンジー)と人間の食べ物の違いを考えます。		
10分	「人間の食べ物」(絵や実物) 「猿の食べ物」(絵や実物) を生徒の前に示す。 T それぞれ、どんな食べ物ですか? T 生徒の言ったものを表にまとめる。確認する。	・猿は野生のもので考える事ははっきり示す。	・全生徒、食べ物を確認する。特にH、D、Aには丹念に見せる。 ・H、D、A、K中心に発表。
15分	T さて、猿の食べ物と人間の食べ物で「違い」は何でしょう? いろいろあると思います。自由に意見を出してください。 食器の使用、調味料などいろいろな意見が期待される。 (実物を示す) 「焼き芋」「なまの芋」 「火を通した肉」「生肉」 T (ヒント) ・どちらが、猿が食べるものか? ・人間の食べるものは、何か手を加えていないか?	・最初は自由に言わせるが、核心にせまる意見が出ない時は途中でヒントを言う。	・ヒントを言う前に、B・Iから核心につながる意見が出たら、それをいやす。 ・なかなか核心にせまる意見が出なかったら、ヒントを出し、また自由に意見を出させる。 B、Iに意見発表を促す。
15分	T 猿と人間の食べ物の「違い」の中で「大事な」違いは何だろう? (ボードに書き説明する) 野生の猿: なまの食べ物ばかり。 調理しない 人間: なまの食べ物もある。 その他の方が多(具体的にあげる)調理をする。 T (ヒント) 肉を調理をする時に使うものは何ですか。(炭焼きパーベQなど思い出して) * ガスレンジに火をつけてみる	・ボードに書いたあとで生徒に意見を発表させる。 ・生徒が「答え」を言うようにする。	・各生徒に自由に発表させる。B、Iから意見が出たらそれをいやす。
5分	●まとめ T 猿と人間の食べ物一番大事な違いは、「火」を使って調理するかどうかなのです。 * 時間があれば、人間の方がよりたくさんの種類の食べ物を食べることにふれる。		・時間があれば、火を使って調理する利点について、B、I中心に意見を発表する。 (時間がなければ、次の時間にふれる)

- (4) 準備するもの
・野生の猿(チンパンジー)の食べ物(実物または絵か写真)
・人間の食べ物(調理したものを中心に) 絵か写真
・模造紙
・ガスレンジ
- (5) 座り方
車椅子の生徒4人、教員が介助して座る生徒1人、イスに座る生徒1人
- (6) 評価の観点
全体の目標、個人の目標がそれぞれ達成できたかどうか。

B	D	A	H	I	K
* 理由をあげたり、詳しく誘導する。	* 意見を言うように、教員からも援助する。 * 友達の意見を言う。	* 教材をよくみる。 * 教員と一緒に考える。 * 友達の意見を発する。	* 教材をよく見る。 * 教材と違った時で、意見を言う場を指摘する。 * 友達の意見を言う。	* すぐに意図を言わないか、酒井君の意見をあげて答える。 * 見子たヒ井君をえさ理由で答える。	* 教員から誘導理由をあげる。 * 教員の援助を受け、自分の意見を言う。
* 比較して検討させる。重要な理由をあげようように誘導する。	* 友達の意見を言う。	* 友達の意見を言う。	* 友達の意見を言う。	* 教員のヒント・酒井君の意見を自由に見を言う。	